シゲジロウ話・用事を足す

シゲジロウ、ある時、親に用を言い付けられた。「シゲジロウ、隣の家さ行てけれ……」、と言うや否や、隣の家にぶっぱへ(飛び跳ね)で行ってしまった。親がその後の「コロシ(粉通し)、始末して返してきてくれ」と、用事をいう間に、とっくに行ってしまった。

親が、隣からもどってきたシゲジロウに今度、「シゲジロウ、用も聞がねで何しに行った」と言うと、シゲジロウは「隣さ、えてけれって、いわれだがら、行ったあだ」と、用も足さないで、ズラーとしていだという。

鎌田林治(上母体　83歳)

〈解説〉

シゲジロウは頓知が効くだけではない。何かを予感して、そこから身を避けようとするすばやさとずるさがあった。周囲の人たちはしてやられるのだが、しかし憎めない男であった。